

わかって動こうとする力を高める 朝の体育

国立大学法人山梨大学
教育人間科学部附属特別支援学校
全校児童数16名
(男子12名 女子4名)

実践内容

実施目的

- ①児童が状況に応じて適切に身体を動かすことができるようにするため、身体の動きや情緒面に着目するとともに、自分で判断して動こうとする力や上達していこうとする認知面に着目した授業づくりをする。
- ②身体の動きと情緒面に着目した授業「朝の体育（室内運動）」に認知面の観点を追加し、実践しながら授業改善を図ることによって、児童一人一人の身体の動きの向上につなげる。

実施内容

1 児童の実態把握に関する検討

児童の全体像を把握でき、授業に活用しやすい客観性のある実態把握の方法を検討するため、「児童の実態について」の書式（実態把握表）を作成しています。この書式（実態把握表）は、基本的な生活習慣、健康、情緒、認知、身体の動き、対人関係、コミュニケーションといった7つの観点から児童の実態を記載し、児童の実態から実態の背景までの過程を、つながりを持って把握できるような表記になっています。それをもとに児童一人一人の目標と手立てを記載した授業案を作成しています。

2 「朝の体育(室内運動)」「上手に身体を動かそう」の実践

授業全体の構成は「動きの種類（多様な動き）を増やす」とし、授業の前半は、「運動量（動く量）を確保する」、後半は「動きの質（適切な動き）を高める」という観点で授業実践を行っています。

基本的な動きを、バランス系の動き9種類、移動系の動き9種類、操作系の動き18種類の計36種類に整理し、それぞれの運動種目の中に、どのような基本的な動きが出現するのかを分析しています。

その結果、現在「パラバルーン」「高這い」「トンネル

くぐり」「段ボールロード」「両足ジャンプ」「跳び箱」などの運動種目を設定しています。

また、児童が自分で考えたり判断したりして、適切に身体を動かすことができるよう、次のような支援を行っています。

- ①判断しやすい教材と配置
- ②刺激物の撤去
- ③教師の役割分担の確認
- ④課題分析に基づいた支援の段階や内容の確認
- ⑤児童個人用の視覚教材の活用
- ⑥支援の内容別にグループ編成
- ⑦児童の動きの観察
- ⑧視覚教材の活用
- ⑨児童自身の自己評価

3 「朝の体育(室内運動)」「上手に身体を動かそう」の評価

授業全体を評価し、授業の構成や環境設定、教師の支援についての改善点を明確にしていくこと、児童の個別目標の達成度、変容を分析するために「授業の評価表」を作成しています。

「授業の評価表」は、教師が自己評価・他者評価しながら改善点をあげていくための「教師編」と、児童一人一人の運動量（動く量）と動きの質（適切な動き）を捉えていく「児童編」の2つを作成し、毎回の授業後に記述しています。

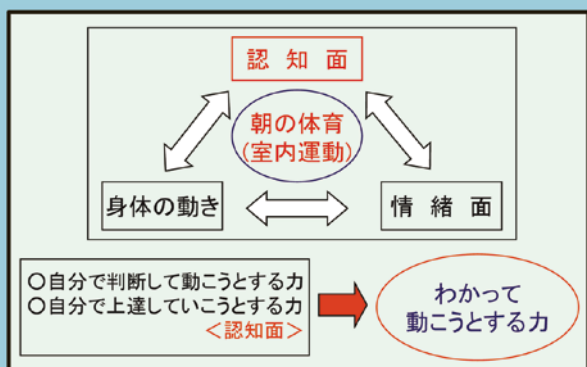
実施上の留意点

- ①運動場面での児童の導線の整理をしながら、児童が動きやすい環境を設定しました。
- ②児童一人一人の動きの習得状況に応じて、教材の難易度をステップアップするようにしました。
- ③児童の実態に応じて、児童が理解しやすい教材や環境を再考しました。

主な成果

- ①「授業の評価表」や取り組む運動種目や回数をチェックする方式の活用により、児童の運動量（動く量）が増大しました。
- ②運動種目を実施する中で、動きの質（適切な動き）が高まり、過剰動作や、無駄な動きが消失し、運動の目的にあったスムーズな動きに変容しました。
- ③保護者から得られた家庭での様子に関して、これまで使えなかった遊具で遊ぶようになった、運動遊びを積極的に行うようになったことがあげられています。
- ④児童一人一人に応じた支援として、ジェスチャー、オノマトペを工夫することで、活動に取り組むきっかけづくりができるようになりました。
- ⑤運動種目カードを提示して、運動の仕方を理解することにより、自ら運動種目を選択し、意欲的に取り組む児童が多くなりました。

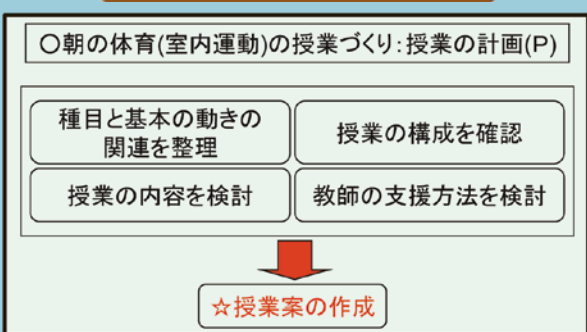
取組みの概要①



取組みの概要②

- 児童の実態把握に関する検討
「児童の実態について」の書式の作成と活用
- 授業実践
「小学部：授業づくりの枠組(PDCAサイクル)」と「全校共通：授業づくりの大切な要素」を活用
朝の体育(室内運動)の授業づくり

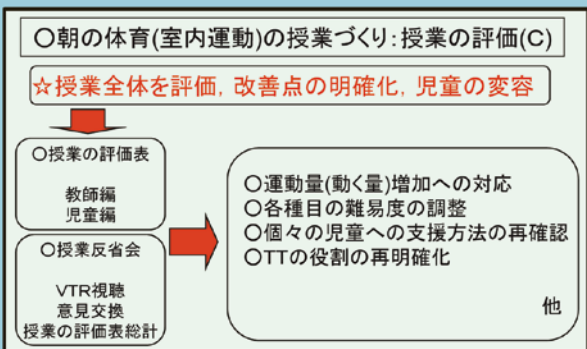
取組みの経過①



取組みの経過②

- 朝の体育(室内運動)の授業づくり：授業の実践(D)
★自分で考えたり判断したりして適切に動く
- 授業の前半：運動量(動く量)
判断しやすい教材と配置
刺激物の撤去
教師の役割分担の確認
課題分析
児童個人用視覚教材の活用
他
- 授業の後半：動きの質(適切な動き)
支援の内容別グループ編成
児童の動きをよく見る
視覚教材の活用
児童自身の自己評価
他

取組みの経過③



授業の評価表(教師編)

項目	評価	備考
目的	達成	
内容	理解	
方法	活用	
態度	向上	
その他		

授業の評価表(児童編：動きの質(適切な動き)の評価)

朝の体育(室内)：動きの質(適切な動き)の評価		両足ジャンプ	
月	日	評価者	
児童名 ()			
2試行の1回目のジャンプでチェック			
ジャンプ開始姿勢(ジャンプポイント)	ジャンプ時(ジャンプポイント)	ジャンプ時(ジャンプポイント)	ジャンプ時(ジャンプポイント)
両足をそろえて跳ぶことができたか	両足を跳躍方向と反対に後方へと振り出したか	両足をそろえて跳ぶことができたか	両足を跳躍方向へと振り出したか
跳躍時(足指)が伸びているか	両足を跳躍方向へ振り出すことができたか	跳躍時(足指)が伸びているか	両足を跳躍方向へと振り出すことができたか
跳躍を中や遅くできたか	両足をそろえて跳ぶことができたか	跳躍を中や遅くできたか	両足をそろえて跳ぶことができたか
跳躍を早く遅くできなかったか	両足が伸びているか	跳躍を早く遅くできなかったか	両足が伸びているか
	跳躍が伸びているか		跳躍が伸びているか
	両足を跳躍方向へと振り出すことができたか		両足を跳躍方向へと振り出すことができたか
特記事項			

評価を基にした授業の改善

- 朝の体育(室内運動)の授業づくり：授業の改善(A)
★授業の評価(C)による授業の改善(A)
- 環境設定の改善
- 各種目の難易度の調整
- 個々の児童への支援方法の再確認
- 児童個人用視覚教材の積極的導入
- TTの役割の再明確化
- 他